

# 平成27年度 大洲市職員人事異動

## 市職員297人が4月1日付で異動

今年度の人事異動は、部・課の再編など、組織、機構の見直しに伴い、職場の活性化を図るため長期勤務（おおむね4年以上）となる職員を可能な限り異動を実施するとともに、女性職員の積極的登用を図り、適材適所の人事配置に努めました。

### 人事異動の基本方針

#### 1 部・課などの再編（主なもの）

（総務部）

- ▽「総務課」は、行政係、文書係に加え、人事、給与など職員関係事務を担当します。
- ▽「財政契約課」は、財政係に加え、管財、契約関係事務を担当します。

（総合政策部）

- ▽「企画政策課」は、秘書事務、行政改革推進事務を追加分掌するとともに、内室の政策秘書室には、政策係を新設し、市長特命事項などの調査研究、政策形成機能の強化を図ります。
- ▽えひめ国体の総合的かつ円滑な対応を図る観点から、国体準備課を教育委員会から総合政策部に移管し、「えひめ国体推進課」に改称します。

（市民福祉部）

- ▽「市民生活課」は、住民票、戸籍関係事務のほか、環境や衛生に関する事務を分掌し、市民の生活に直結した事務を担当します。
- ▽「保険年金課」は、国民健康保険や後期高齢者医療制度に関する事務と国民年金関係事務を担当します。
- ▽「子育て支援課」は、子ども子育て支援新制度に沿った取り組みを推進するとともに、「子ども相談係」を新設し、保育所および幼稚園の子育てに関する総合窓口を担当します。

（建設部）

- ▽「治水課」では、ダム対策課と連携したダム事業の推進とともに、肱川流域の治水対策を担当します。
- ▽「ダム対策課」では、ダム事業に係る用地事務や地元調整などの機能を引き続き行います。

（教育委員会事務局）

- ▽教育総務課と学校教育課を統合し、「教育総務課」とし、事務の効率化を図るとともに、「学校教育指導監」を新設し、学校教育全般に関する指導などの強化を図ります。

#### 2 行政ニーズなどに対応した人事配置と職員派遣

- ▽女性職員の登用を拡大し、肱川支所に女性支所長を配置するとともに、課長補佐級の保育所長7人を配置します。
- ▽支所地域振興課長補佐に地域自治係長を兼務させ、地域自治組織の円滑な再編を支援します。
- ▽愛媛県などとの相互人事交流を継続し、県職員1人の受け入れと職員3人を県へ派遣するとともに、愛媛地方税滞納整理機構に職員1人を派遣します。

#### 3 異動総数

- ▽異動総数 297人 （昨年度 292人）
- ▽異動率 41.1% （昨年度 40.0%）



#### 新規採用（24人）

大森 （保健センター） 安子	井手明 （薬剤師） 日香	池上麻土佳 （理学療法士） 佳	船田将吾 （作業療法士） 将吾	狩野佳美 （看護師） 佳美	葛井洋子 （看護師） 洋子	今堀サユリ （看護師） サユリ	山本諒 （看護師） 諒
神本夏季 （高齢福祉課） 夏季	山岡恵里子 （肱川保育所） 恵里子	大野初美 （粟津保育所） 初美	藤田彩華 （大洲保育所） 彩華	田淵喜子 （肱北保育所） 喜子	奥野友子 （大和保育所） 友子	中村幸代 （喜多保育所） 幸代	武田倫実 （社会福祉課） 倫実
泉史夫 （財政契約課） 史夫	城戸綾花 （総務課） 綾花	門屋明日香 （税務課） 明日香	高橋奈緒 （中央公民館） 奈緒	井上空太 （水道課） 空太	文大塚 （文化センター） 大塚	新屋敷博之 （税務課） 博之	政木春那 （建設課） 春那

※氏名は、写真の並び順



災害に備えて準備しておくもの

「非常備蓄品」は、災害復旧までの間、自ら生活できるように準備しておくものです。地震・津波などの災害が発生すると、普段どりの生活ができなくなる事も考えられます。7日分の備蓄品を、自宅に備えましょう。

▽食料の備蓄



缶詰やレトルト食品、ドライフードなどを備えましょう。  
※アレルギー対応の非常食など、自分に適した食料を備えるよう注意しましょう。

▽水の備蓄



ペットボトルや、ポリ容器に水をためて、保存しておきましょう。  
(備蓄の目安)  
大人1人当たり、1日3リットル

▽燃料の備蓄



電気やガスが止まっても炊事ができるように、カセットコンロと予備のガスボンベを備えましょう。

(備蓄の目安)

カセットコンロ1つに1日2本のガスボンベ

▽その他の備蓄



【一般家庭】

毛布、衣類、ティッシュペーパー、トイレットペーパー、紙皿、紙コップ、割り箸、簡易トイレ、生理用品、洗面用品、ドライシャンプー、せっけん、工具などを備えましょう。



【乳幼児のいる家庭】

粉ミルク、哺乳瓶、おむつなどを備えましょう。



【妊婦のいる家庭】

脱脂綿、ガーゼ、さらし、新生児用品などを備えましょう。

【問い合わせ先】

危機管理課 ☎24 1742

文化財



木造薬師如来坐像1軀  
大洲市指定有形文化財(彫刻)  
圓滿寺所有

久米地区にある圓滿寺は、創建は不明ですが火災で焼失した後の寛永11年(1634)秀鏡によって再建された寺院です。明治期には、廃寺となっていた阿蔵古久米武田の圓城寺と高山の月光寺を併合したため、現在の圓滿寺には2軀の薬師如来坐像がまつられています。

火災により宝物などすべてが焼失しましたが、焼失を免れた本坐像は、像高59.5cmで左手に薬壺を捧げ右手に施無畏印(右手の5本の指を伸ばし、手のひらを前にして肩の辺りに上げる印相)を結んだ典型的な薬師如来坐像で、製作年代は鎌倉時代とされています。桧材の寄木造りで、頭部はややうつむき加減に彫眼(直接木から目を彫る技法)され、慈愛に満ちた優しい顔つきとなっています。

優美で均衡のとれた様相は、市内でも数少ない優品の一つといえるものです。

(昭和37年11月3日指定)

野鳥



ツツドリ(筒鳥)  
カッコウ目カッコウ科  
全長 32cm

4月の半ば過ぎに、「ポポッ、ポポッ、ポポポポ、ポポッ」と鼓をたたくような鳴き声でやって来る、カッコウの仲間です。同じ種類のホトトギスやカッコウも、独特の鳴き声から名前が付けられています。

また、この鳥の仲間は変わった生態の持ち主で、自分のひなをほかの鳥たちに育てさせる托卵をします。その相手もほとんど決まっていて、ツツドリは4月の初めに渡って来るセンダイムシクイが、巣を構えて抱卵を始めたころ、大きさこそ違いますが、模様や色までもそっくりな卵を産み落とすそうです。その時、親鳥を追い出して卵を産むために、姿や体形は猛禽類に似せています。

生息数の多い小鳥に子どもを預ける方法で、命を次の世代につないでいくなると、本当に生き物の世界には不思議な事がたくさんあります。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト

## 大洲藩主加藤家の文化財（第拾貳幕）

加藤泰社（かとうやすとみ）



大洲藩12代藩主加藤泰社は、天保15年（1844）泰幹の子として大洲に生まれ、嘉永6年（1853）父泰幹の死去に伴い10歳で家督を相続しました。

泰社が藩主に就任した直後の安政元年（1854）と4年（1857）には、未曾有の大地震が大洲を襲います。大洲城内では高欄槽、台所槽をはじめとして、槽や藩主の居住する御殿など数多くの建物の倒壊のほか、地割れや石垣の崩れ、城下町では、侍屋敷96軒、町家487軒が破損するなど著しい被害を受けました。

災害復興において、特に大洲城では、家臣を総動員して石持ちなどに従事させたほか、藩領内の村々に加勢夫を差し出させるなどして早急な復興を進めました。

一方、朝廷を重んじた泰社は、

文久2年（1862）、朝廷から非常時における京都警備の内勅をうけると、文久3年（1863）の「八月十八日の政変」（会津藩と薩摩藩が長州藩を主とする尊王攘夷派を京都から追放した事件）の際には、新谷藩とともに参内し宮中守衛を行い、9月11日まで京都の警護にあたりました。

こうした京都警護の尽力の功により、元治元年（1864）5月、泰社は歴代藩主の中で唯一、従四位下に推叙されますが、同年8月大洲において21歳の若さで急死します。遺骸は、その日のうちに如法寺に密葬されました。

泰社を描いた肖像画では、歴代藩主が赤（五位）の衣冠束帯姿で描かれているのに対して、黒（四位）で描かれています。これは他の藩主とは異なり、上位の官位にあったことを表しています。



加藤泰社の墓所（如法寺）

## 大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

大洲市では一年を通して、花を楽しむ事ができます。3月下旬の菜の花から始まって、大洲城の桜、脇川のしゃくなげ、フラワーパークおおずのチューリップ、富士山のつつじ、他にも、エビネ、しょうぶ、ひまわり、コスモスと続きます。

5月に入ると富士山のつつじが満開になり、つつじまつりが開催されます。四季折々のいろいろな花を楽しむのも、大洲の魅力のひとつと言えるでしょう。

## 【今月のクイズ】

富士山は大洲盆地の中心に位置し、西日本有数のつつじの名所です。富士山のつつじは、およそ何本あるでしょうか。

- ① 約42,000本
- ② 約53,000本
- ③ 約63,000本



## 【先月号のクイズの解答・解説】

大洲城には隠された彫り物（木で彫った置物）があります。それは次のうちどれでしょう。

- ① 「ネズミ」と「テントウムシ」
- ② 「ツル」と「カメ」
- ③ 「ヘビ」と「ネズミ」

解答…①

解説…昔からネズミには予知能力があり、災害や火災がおこりそうな建物には住まないといわれているそうです。大洲城が災害や火災にあわないようにと、願いが込められているようです。彫り物がどこに置いてあるのか、大洲城に行って探してみてもはどうでしょうか。



大洲城のネズミ



大洲城のテントウムシ

※今月のクイズの答えは、広報大洲6月号に掲載します。

## ンダンクンダンク※ JICAセネガル通信 No.1

あきまさ

青年海外協力隊 藤本 顕允 さん

※現地語（ウォロフ語）で「少しづつ」の意味

アッサラームマレイクム、ンポーロミ  
（ウォロフ語で「こんにちは、みなさん」の意味）

去る1月6日火、故郷・大洲を立った私は、20時間以上に及ぶフライトの末、アフリカ大陸最西端の地・セネガルに降り立った。このシリーズは、一人の青年が異国の地で奮闘するさまを記していくものである…。

ということで、はじめまして。セネガル名、デンバ・ファイこと藤本顕允です。私は今、青年海外協力隊のコミュニティ開発隊員としてセネガル共和国のファティックという場所で活動しています。これを読まれているみなさんは「セネガルってどんなところなん」とか「コミュニティ開発ってどんなことしよん」などなど、疑問が多くあるのではないのでしょうか。

朝日や星空のきれいさに心を打たれ、道を歩けば牛やロバに出会い、近所のおじさんに「昼飯食うていかんか」と声をかけられる、そんな魅力あふれる国・セネガルでの生活や活動の様子を余すことなく伝えていきたいと思っています。このシリーズが終わるころには、みなさんの

「疑問」が一つでも減って、セネガルのことを好きになっていただければ幸いです。



カメラを向けると…

## セネガルと日本は似とるかも

セネガルの人たちはあいさつをととても大事にしています。「こんにちは。元気」から始まり、仕事はどう、家族は元気、昨日はよく休めた、などなど、相手のことを気遣う言葉が並びます。一通りのあいさつにかかる時間は日本よりも長いかもしれません。あるセネガル人が「日本では、時は金なりやけどセネガルではあいさつは金なり、やね」と言っていたのが印象的です。道ですれ違う時も互いにあいさつをしています。

また、目上の人を敬う、という部分も日本と似とるな、と感じています。目上の人へのあい



大樹・バオバブ

さつに関しては特に厳しく言われています。そんな私のお気に入りのフレーズは「今日も平和よ、ありがとう

神様」です。これを言うたびに、平和でよかったなということを実感しています。何よりも、現地語を満足に操れない自分にとって、さまざまな質問に対応できるこのフレーズは、重宝すべきものとなっています。

東京オリンピックの招致活動で一躍有名になった言葉「おもてなし」は、ここセネガルでも「テランガ」という形で浸透しています。道を歩いていると、「ちょっと昼飯食うていけ」や「アタヤ（現地のお茶）飲んでいき」、「うちに遊びにおいでよ」などなどの言葉をよくかけられます。セネガルの食事は大人数で一つの皿を囲むスタイルであり、家族だけでなく近所の人も一緒に食事をしています。家族の概念が広いのもセネガルの特徴です。他人との距離が近く、どこか温かみのあるセネガルの雰囲気は私は好きです。

本当は、先ほど触れたウォロフ語やセネガルの料理、アタヤの習慣などお伝えしたいことは山ほどあるのですが、次回ということで…。最後は、私の活動についてお伝えしたいと思います。

## コミュニティ開発って何なん

聞き慣れない言葉だとは思いますが簡単にまとめると、「コミュニティ（村や地域）に入って現地の人と共にニーズや課題を見つけ解決していく」というものです。

私はその中でも水の分野に注力した「水の防衛隊（通称 W-SAT）」として活動しています。さらに聞き慣れない言葉が出てきましたが、再び簡単にまとめると、「安全な水の確保のために住民組織の運営のお手伝いをする。衛生啓発活動を行う」です。現在は、配属先に着任してから一カ月近く経ちましたが、現地語の習得や配属先での情報収集、そして何より同僚の顔と名前を覚えることに四苦八苦しています。

また、同僚といくつもの村に出向き自己紹介をしています。まだまだ分からない言葉も多く、苦労は絶えないですが一步一步前進していきます。

では、また次回お会いしましょう。

バベネンヨン

（ウォロフ語で「また今度」の意味）

（現地時間2015年3月25日・セネガル生活79日目）



語学学校にて



3月29日(日)

## 合併10周年記念春の鹿野川湖周遊企画 ～開幕式、春神楽～

昨年度までのしゃくなげ祭り関連行事は、今年度から「春の鹿野川湖周遊企画」として、2カ月に渡って開催されることになりました。

この日は、「道の駅」清流の里ひじかわで開幕式が行なわれ、その後春神楽の演舞がありました。雨が降っていた空は、神楽が始まると晴天に変わり、山鳥坂しめ鎮縄神楽を、多くの方が楽しみました。



3月24日(火)

## 長浜高校水族館部 いざ世界へ ～記念発表会・激励会～

第58回日本学生科学賞において内閣総理大臣賞を受賞した長浜高校水族館部が、5月にアメリカのピッツバーグで開催されるインテル国際学生科学技術フェア世界大会への出場を前に、長浜ふれあい会館にて記念発表会を行いました。

会場には、200人近くの地域住民や関係者が集まり、熱気あふれる発表会、激励会になりました。



4月5日(日)

## 春の陽気に誘われて ～第11回上須戒さくらまつり～

明玄めいげんふれあい広場（旧上須戒ふれあい広場）において、約600人が参加して第11回上須戒さくらまつりが開催されました。

当日はあいにくの曇り空となりましたが、バザーや餅まき、お菓子まき、内子町和太鼓集団「和達」による演奏などが行われ、参加者たちは上須戒の暖かい春の一日を楽しみました。



3月29日(日)

## 河辺の春の訪れ

### ～第3回河辺ふるさと公園さくら祭り～

河辺の春のイベント「ふるさと公園さくら祭り」が、ふるさとの宿で開催されました。

当日は、雨のため2年続けて屋内での開催となりました。シャモ鍋の無料配布や特産品の販売、橋本岳人がくじん山さんによる尺八の演奏、全員参加のミニイベントなどが行われ、約140人の参加者は春の訪れを感じられる一日を過ごしました。

## 愛媛県選抜競技者表敬訪問

3月20日(金)、愛媛県選抜競技者に選ばれた、大洲北中学校の河野真菜佳さんと肱川中学校の藤原疏さん、亀岡亜希斗さんが、市役所を訪れました。

バスケットボールの愛媛県選抜に選ばれた河野さんは「愛媛県代表である誇りを持って、自分のできることを精一杯頑張ります」と抱負を述べました。

ソフトテニスの愛媛県選抜に選ばれた藤原さんと亀岡さんは「全国大会では、団体戦で選抜チームのメンバーと団結し、ベスト8を目指します」(藤原)、「愛媛県選抜チームの目標である、ベスト8を達成するために、キャプテンとして貢献します」(亀岡)とそれぞれ力強く抱負を語りました。

河野さんが出場した第28回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会2015では、予選リーグで大分県のチームに48対24で勝利し、愛知県のチームに63対75と惜敗しました。リーグ戦1勝1敗の成績で、残念ながら決勝トーナメント進出はかきませんでした。

藤原さんと亀岡さんが出場した第26回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会では、初日に個人戦が行われ、愛媛県からは3ペ



アが登録していましたが、残念ながら初戦敗退となりました。大会2日目には団体戦が行われ、二回戦から登場した愛媛県チームは、山梨県のチームをストレートで下し、三回戦に進みました。しかし、三回戦では惜しくも宮崎県のチームに敗れてしまい目標のベスト8入りはなりませんでした。

今回、全国レベルの大会に出場することができた3人にとって、非常に良い経験ができたことと思います。この経験を、今後の学生生活に生かすとともに、これからの活躍にも期待をしたいと思います。

## 高齢者叙勲

### 瑞宝双光章



美野石吉さん  
(長浜)  
元長浜中学校長

美野さんは、長年にわたり学校教育に尽力されたご功績により、このたび瑞宝双光章を受章されました。

## 林野庁長官賞を受賞

3月4日(水)、第28回きのご料理コンクール全国大会が東京で開催されました。

今年の大会には、全国から2,190件の応募があり、この日は各地区の代表11人がきのこを使ったオリジナルメニューに腕を振るいました。大洲市からは、女性林業研究グループの上野マリエさんが参加し、大洲産の原木乾しいたけと魚のすり身を使い風味良く仕上げた「じゃこきのこ」が、最優秀賞となる林野庁長官賞を受賞しました。

大洲市女性林業研究グループは、昨年2月に結成されたばかりで、林業の振興や特産林産物の普及啓発活動を行っています。

今回の受賞で会員や関係者からは、今後の活動に大きくはずみがつくと喜びの声が聞かれました。



## 平成26年度 土砂災害防止に関する作品コンクール表彰

国土交通省と愛媛県では、小中学生のみなさんに土砂災害およびその防止についての理解と関心を深めてもらうため、毎年「土砂災害防止に関する作品コンクール」を開催しています。

平成26年度のコンクールで、大洲市からは次のみなさんが入賞し、表彰されました。(学年は、作品作成時のものです)



【小学生・絵画部門】

国土交通大臣賞

山本莉央奈さん  
(平小学校 1年)

【小学生・絵画部門】

国土交通事務次官賞

城戸彩夏さん  
(平小学校 1年)



【小学生・絵画部門】

愛媛県砂防ボランティア協会会長賞

日野洸誠さん  
(河辺小学校 4年)

### 高齢者見守りネットワーク協力事業者が増えました

今回、新たに4事業者と大洲市高齢者見守りネットワークに関する協定を締結しました。

この協定は、近隣住民との付き合いが希薄化し、高齢者の孤立死や孤独死が社会問題となっている状況を踏まえ、行政と民間事業者、地域の連携により、高齢者を見守るネットワークを構築することを目的にしています。

市では、民間事業者の力を借りて、平成25年2月からこの事業を開始しています。これまで17の協力事業者と協定を締結していて、今回の締結により21事業者となりました。

この協定は、締結後ただちに運用され、高齢者の安全を見守っていくこととなります。

なお、今回の協定締結事業者は次のとおりです。

【2月27日締結】

- ▽株式会社フジ
- ▽愛媛信用金庫

【3月25日締結】

- ▽三井住友海上火災保険株式会社愛媛支店南予支社
- ▽肱川産業株式会社

### 大洲の下駄げたが伝統的特産品に

3月13日(金)、大洲の下駄が愛媛県伝統的特産品に指定されました。

愛媛県伝統的特産品とは、長い年月を越えて受け継がれてきた伝統的な技術・技法により製造され、えひめの風土の中で育まれてきた郷土色豊かな伝統性のある工芸品・民芸品などで、今回の指定で全27品目となりました。

今回の指定を受けて、有限会社長浜木履工場代表取締役の福本紀孝とほりたかさんは「下駄は、日本の文化だと思っている。これからも、その文化を伝えていきたいと思う。今回の指定で若い人にも下駄に興味を持ってもらい、日本の良さを再認識してもらいたい」と話されました。

